



Japan International Education Society

日本国際教育学会

第 36 回研究大会 プログラム

日程：2025 年 10 月 11 日（土）・10 月 12 日（日）

会場：関東学院大学 金沢八景キャンパス 3 号館

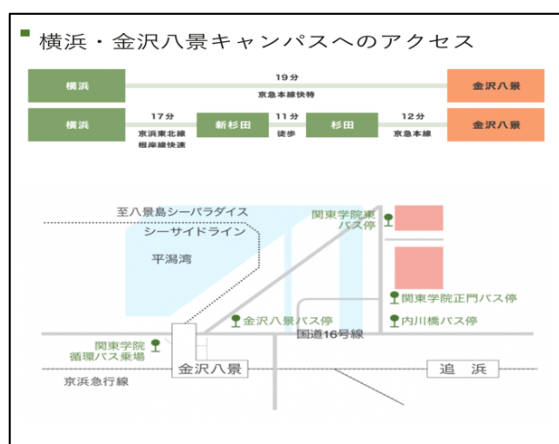
I 開催要項

1) 開催日時: 2025 年 10 月 11 日(土) 10 時 ~10 月 12 日(日) 15 時

2) 大会会場: 関東学院大学 金沢八景キャンパス 3号館

(〒236-8501 横浜市金沢区六浦東 1-50-1)

横浜・金沢八景キャンパスの最寄り駅は、京浜急行線の「金沢八景駅」です。横浜から約 20 分、都心から約 60 分に位置します。また、海の公園や八景島を通る横浜新都市交通金沢シーサイドラインの「金沢八景駅」も利用可能です。金沢八景駅からは京急バス「関東学院循環」乗車約 5 分または徒歩約 15 分です。バスにご乗車の場合は、「関東学院正門」にてご降車ください。



<金沢八景キャンパスマップ>

詳しくは関東学院大学 HP をご覧ください。 <https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/>
なお、宿泊についてはご自身でご手配ください。

3) 大会日程

10 月 11 日(土)

時間	プログラム	使用教室等
9:30~10:00	受付	3号館 2階
10:00~11:30	自由研究発表 I	204、205、206
11:30~12:30	昼食休憩、シンポジウム打ち合わせ	
12:30~14:45	公開シンポジウム	201
15:00~16:00	総会	201
16:00~17:30	情報交換会	3号館 1階 ざくろ

10月12日(日)

時間	プログラム	使用教室等
9:30～10:00	受付	3号館 2階
10:00～12:00	自由研究発表 II	204、205、206
12:00～13:00	昼食休憩	
13:00～15:00	課題研究	201

* 自由研究発表分科会 (204、205、206)、公開シンポジウム・課題研究 (201)、会員控室 (305)、事務局控室 (307)

* 大会 1 日目は 3 号館 1 階の食堂の利用が可能ですが、2 日目は学内売店、学食などすべて閉店しております。近隣にコンビニがありますので、お手数ですが各日ご自身で昼食をご持参、ご準備いただきますようお願いいたします。

4) 参加費

会員 3,000 円 学生会員 無料 非会員 4,000 円

情報交換会参加費: 会員 4,000 円 学生会員 3,000 円

- * 参加費は現金で受付時にお支払い下さい。できるだけお釣りの要らないようご協力ください。領収書は大会受付時にお渡し致します。
- * 「公開シンポジウム」のみに参加される場合は無料です。
- * 今大会においては、学生の参加費は無料です。
- * 今大会では情報交換会を予定しております。

5) 自由研究発表における留意事項

○発表者は、当該分科会開始 10 分前までに分科会会場にお入りください。

○発表時間は、個人研究／口頭発表者が 1 名の場合の共同研究→発表 20 分＋質疑応答 10 分、口頭発表者が 2 名以上の場合の共同研究→40 分＋質疑応答 20 分です。発表時間の超過は認められません。時間配分にご注意ください。

○発表時刻および発表順の変更は原則として行いません。やむを得ない事由により発表辞退が発生した場合も同様です。その際は司会者判断により休憩または討論の時間とします。

○配布資料は、発表者が事前に各自印刷 (20 部程度) の上、会場にご持参願います。資料の形式は原則自由とします。大会期間中、配布資料等を会場内で印刷・作成することは出来ません。資料その他を事務局でお預かりすることも出来ません。ご了承下さい。

○発表に際し、PC 使用の場合、パソコンは各自でご用意(お持ち込み)下さい。プロジェクターは利用できます。VGA ケーブルおよび HDMI ケーブルはすべての会場に備え付けられています。なお、コンピュータを VGA 端子等に接続する際の変換アダプタは、各自でご用意頂くようお願いいたします。

Ⅱ 自由研究発表Ⅰ（１０月１１日（土） １０：００～１１：３０）

第１分科会【３号館 ２０４教室】

司会：服部 美奈（名古屋大学）

(1) 10：00～10：30

タイの高校生の日本語学習モチベーションとポップカルチャーへの関心

植田 啓嗣（福島大学）

(2) 10：30～11：00

イタリアの公立学校における宗教間対話のための実践例

高橋 春菜（盛岡大学）

(3) 11：00～11：30

高等教育国際化理論の批判的検討—Jane Knight と Hans de Wit の比較を通じて—

上林 あい（公立小松大学）

第２分科会【３号館 ２０５教室】

司会：渡辺 幸倫（相模女子大学）

(1) 10：00～10：30

多文化共生社会に貢献する医師育成を目指した医療面接学習教材の開発について

岩田 淳（島根大学）

(2) 10：30～11：00

日本とベトナムの協力による看護/介護人材の養成

○楊 武勲（国立暨南国際大学）

林 思敏（中山医学大学）

(3) 11：00～11：30

地域と協働した異文化・異年齢交流の実践と教育的価値
—多様な主体の学びに着目して—

石森 広美（北海道教育大学）

第3分科会【3号館 206教室】

司会：石井 由理（山口大学）

(1) 10:00~10:30

Exploring the Role of Peer Relationships in EMI Contexts through the Lens of
Learner Agency

Aria Ikehata (Graduate Student, International Christian University)

(2) 10:30~11:00

Curricular Flexibility: A Grounded Theory Study of Chinese Homeschooling

Qiu (Autumn) Wang (Institute for Educational Research and Support, International
Christian University)

(3) 11:00~11:30

Developing wisdom in the Primary Years: Emerging findings from the #GlobalWisdomLab
Zane M. Diamond (Monash University)

Ⅲ 公開シンポジウム（１０月１１日（土）１２：３０～１４：４５）

アジア諸国における生涯学習の空間活用

【３号館 201 教室】

■報告１ 横須賀総合高校の「産業社会と人間」「羅針」の取組と生涯学習－「扇の要」として－

加藤 将（横須賀市立横須賀総合高等学校）

■報告２ 地域における市民の学習活動の支援－横須賀市生涯学習センターの事例－

高橋 直人（横須賀市生涯学習センター）

■報告３ タイ王国の地域づくりにおける生涯学習の展開－文化と空間の多様性と補完性に着

目して－

柏崎 梢（関東学院大学）

■報告４ 韓国のマウル（地域）教育共同体形成における空間活用－平生教育機関と学校教育

機関の協力体制について

金 亨善（中央大学）

司会 呉 世蓮（関東学院大学）

人生 100 年時代を迎え、マルチステージ型人生へのシフトに伴い、生涯学習における空間活用が注目されている。生涯学習における空間活用は、学びの場を多様化し、学習ニーズに即応した環境で学ぶ機会を提供しうる意味で、学習者の成長に重要な意味をもつと考えられる。生涯学習は個人の生涯にわたり継続的に学習する活動であり、学びを通じて個人が地域社会とのつながりを深める活動でもある。つまり、地域社会の発展にも肯定的な影響を及ぼしつつ、地域の課題や特性に応じた学びを創出する活動だといえる。空間的・時間的制約を超えるような多様な空間における学習活動は学習者の興味関心を高め、より多彩で豊かな経験をもたらす。これには、例えば、学校、生涯学習センター、公民館、図書館、博物館、美術館、NPO 団体

などで行われる学習も含まれる。

そこで、本シンポジウムでは生涯学習の空間活用について学習環境の多様性の観点から考えてみたい。具体的には、生涯学習における空間活用の事例として横須賀市の高校での教育実践、横須賀市生涯学習センターの取り組みとともに、日本への示唆としてタイと韓国の事例を取り上げ、検討する。

IV 総会

総 会

2025 年 10 月 11 日（土）

15 : 00～16 : 00

3 号館 201 教室

会員の皆様にはご出席いただきますよう宜しくお願い申し上げます。

V 自由研究発表Ⅱ（10月12日（日） 10:00～12:00）

第4分科会【3号館 204教室】

司会：日暮 トモ子（日本大学）

(1) 10:00～10:30

大阪市の生涯学習ルームにおける日本語学習支援に関する一考察
— 一定型・非定型・不定型学習の連続性の観点から —

赤尾 勝己（関西大学）

(2) 10:30～11:00

職業学校の外国人学生への対応（仮）

大谷 杏（福知山公立大学）

(3) 11:00～11:30

アジア地域における日本人結婚移住家庭の教育意識についてのインタビュー調査

渡辺 幸倫（相模女子大学）

第5分科会【3号館 205教室】

司会：若園 雄志郎（宇都宮大学）

(1) 10:00～10:30

ドイツ・バイエルン州における専門大学の多様化に関する研究

田中 達也（釧路公立大学）

(2) 10:30～11:00

アラスカ大学における先住民族との共生社会化モデルの構築とへき地の教師教育

○川前 あゆみ（北海道教育大学釧路校）

玉井 康之（北海道教育大学釧路校）

小野 豪大（北海道教育大学釧路校）

(3) 11:00～11:30

バングラデシュのプライベートスクールにおける教育実践と学校経営の実態
— YOU&ME International School の事例から —

室木 宏司（神奈川・小学校教員）

(4) 11:30～12:00

オープン教育による学習機会の拡大と質保証—カナダBC州の取り組みから—

熊谷 朋子（北陸大学）

第6分科会【3号館 206教室】

司会：澤田 敬人（静岡県立大学）

(1) 10:00～10:30

留学を通じた自己探求とライフデザイン—インタビューデータの質的分析から—

地引 優香（聖心女子大学大学院生・東京成徳大学）

(2) 10:30～11:00

中国のSTEM専攻学生におけるジェンダー意識の特徴と形成要因

孫 楊晨曦（広島大学大学院生）

(3) 11:00～11:30

パウロ・フレイレを巡る言説の対立—現代ブラジルにおけるイデオロギー的分断—

山口アンナ真美（東京都立大学）

(4) 11:30～12:00

中国の対外教育戦略の現状

張 子瑩（広島大学大学院生）

VI 課題研究（10月12日（日）13：00～15：00）

教育における「ウィズダム」

—ウェルビーイングを支える協働的な学び—

【3号館 201 教室】

■報告1 日本の教育研究における「ウィズダム」-ウィズダムはどのように捉えられてきたか-

佐藤 千津（国際基督教大学）

■報告2 Four Layers for *smart* wisdom development in the Australian primary

classroom: From Knowledge-Inquiry to Wisdom-Inquiry

Zane Diamond (Monash University)

■報告3 ウィズダムが発現する要件とは -日本における高校卒業後の教育実践事例から-

島川 崇（神奈川大学）

司会 Jeffrey Gayman（北海道大学）

「ウィズダム (wisdom)」は多義性のある言葉であるが、本研究では「ウェルビーイングを追求する優れた判断力」と定義しておきたい。ウェルビーイングの追求とは、個人の幸福にとどまらず、個人を取り巻く社会的環境を持続的に良い状態に保ち、それについて考えることを含意している。ただしウェルビーイングのあり方やその追求の方法は多様であり、社会的・文化的影響を受けるものであるが、そうした様々な思考における判断の際に必要なのがウィズダムである。それでは、こうしたウィズダムはいかにして育まれるのか。哲学的・心理学的理論のみでは、学校の教師がウィズダムを育む教育を行うのに十分な知見を提示できないことや、教師がそれを効果的に行うには社会的・文化的要因と教育学的要因を結びつけて考える必要があることは先行研究から明らかにされている。

また、ウェルビーイングを実現する過程では、個人の自立に加え、他者との共生が重要になる。ウェルビーイングの好循環を支える要因の一つに社会的つながりが挙げられるのはこのためである。他者との協働的な学びは、時代と場所の別を問わず、日常の実践コミュニティのなかで自然発生的に行われてきた学習スタイルであるが、協働的な学びから生み出される協働知は、ウィズダムといかに関連し、どのようにウェルビーイングを深化させるのか。「ウェルビーイング」は第4期「教育振興基本計画」（2023～2027年度）のキーワードの一つとして日本の教育においても注目されているところであるが、まずはそれを支え得る判断力としてのウィズダムについて考える必要があるのではないか。

そこで本課題研究では、教育実践における共在性と協働性に着目しつつ、教育におけるウィズダムの形成と、それを支える社会的・文化的要因について検討する。そのことを通じてウェルビーイングを実現する教育のあり方についても考えてみたい。

日本国際教育学会第 36 回研究大会プログラム

〒236-8501 横浜市金沢区六浦東 1-50-1 関東学院大学 国際文化学部

日本国際教育学会 第 36 回研究大会実行委員会

E-mail: jies36th@gmail.com

実行委員長：呉 世蓮（関東学院大学）

実行委員：柏崎 梢（関東学院大学）

実行委員：趙 天歌（関東学院大学・非）

発行日：2025 年 9 月 1 日